

平成29年度 東海農政局農地中間管理事業表彰について

東海農政局では、農地中間管理事業を推進するため、平成27年度から、本事業を効率的かつ効果的に活用し、担い手への農地の集積・集約化に関し功績が顕著な事業地区等の表彰を行っています。

このたび、平成29年度の受賞者を以下の2地区に決定し、表彰しましたので紹介します。

岐阜県下呂市 萩原町羽根(ハギワラチョウハネ)地区

- 羽根地区は、農地面積49haで、水稻を中心に、夏秋トマト、肉用牛の繁殖等が行われています。
- 当地区では、地区役員が主体となって実施したアンケート調査の結果、リタイア意向の農家が2割を超えていました。このことに強い危機感を持った地区の有志が中心となり、県、市、JAの協力を得て集落営農法人の設立による地域農業の活性化を目指し話し合いを重ねました。
- その結果、地区農業の方向性が全体で共有され農事組合法人南ひだ羽根ファームを設立し、35haの農地で農地中間管理事業が活用され、当法人への農地の集積・集約化が進み、担い手への農地集積率も21%から76%に拡大しました。



萩原町羽根地区の圃場

愛知県岡崎市 在家(ザイケ)地区

- 在家地区は、農地面積29haで、主に水稻、麦、大豆の作付けが行われています。
- 当地区は、昭和30年代にはほ場整備が実施されたままの小区画のほ場でした。また、地区内の農家はほとんどが兼業農家で、農地の大部分は地区外の担い手が耕作しており、その農地も分散している状況でした。このまま非効率な農地利用では、近い将来担い手が耕作してくれなくなるとの危機感を抱いた地区リーダーは、県、機構、JAの協力のもと、地区内農地所有者を説得しました。
- その結果、基盤整備事業による農地の大区画化と、25haの農地での農地中間管理事業の活用に取り組み、各担い手にとって効果的な農地の集積・集約化が進み、担い手への農地集積率も60%から84%に拡大しました。



在家地区の圃場

表彰式について

平成29年11月30日にK K Rホテル名古屋（名古屋市中区）において、関係者出席のもと表彰式を行い、受賞した事業地区に対して、幸田東海農政局長から賞状を授与しました。



表彰式の様子



受賞地区の代表者のみなさん